
二人のカンケイ（前編）

なかゆんきなこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

二人のカンケイ（前編）

【Nコード】

N5531U

【作者名】

なかゆんきなこ

【あらすじ】

お妙にお化粧をしてもらった神楽。

いつもとちよっぴり違う自分につきつきしながら歩いていたら、

天敵・沖田に遭遇してしまい…。

沖田×神楽です。

こちらは友人達と合同でやっていた銀魂テキストサイト、『夜光魂』で掲載していた作品を転載したものです。

女の子は、可愛いものが好き。

キラキラ輝くアクセサリー。ふわふわしたマスコット。そして、自分を可愛らしく飾り立てる、お化粧品道具。それは神楽とて、例外ではなかった。

ここは志村家の屋敷にある、妙の部屋。出勤前の妙がてきぱきと化粧をするところを、たまたま遊びに来ていた神楽は食い入るように見つめていた。

「ふふ、やっぱり神楽ちゃんも女の子ねー。お化粧、興味あるの？」
妙が微笑みながら尋ねると、神楽はこくんと頷いた。

「でも姉御みたいにキレイにできないアル。なんかケバくなるね」
神楽はこれまで自分が施してきたメイクの出来映えを思い返し、うーんと唸った。

「お化粧は“慣れ”もあるから。それに、神楽ちゃんくらいの年頃ならお化粧なんて必要ないわよ」

まだ若いんだもの、と妙は言う。しかし神楽は納得がいかない。そんな神楽の頬を、妙は両手でそっと包んだ。

「お手入れをしていなくても、こんなにツルツルすべすべなんだもの。ファンデーションで隠すのはもったいないわ」

「姉御…」

「でも、そうね。それならこれなんてどうかしら」

そう言つて妙は、自分のメイクボックスの中から一本のリップを取り出した。

「色付きリップよ。神楽ちゃんにあげるわ」

くるっと回せば、ほんのり赤みがかったピンクのリップスティック

ク。妙はそつと、神楽の唇にその色をのせてやる。

「ほらご覧なさい。可愛いわよ」

妙に促され、鏡に映る自分の顔を見る。唇がほんのり色づき、それだけで何だかいつもの自分とは違うようだった。

「そうだわ！ グロスもつけましようか。せつかくだから髪型もいじってみる？」

なんだかテンションが上がってきた妙が、張り切ってブラシとりボンを取り出す。神楽はその迫力に気圧されながらも、ドキドキしながら妙に身を任せた。

いつもと違う、自分。

桃色の髪を下ろし、赤いリボンを結んだ。

睫を上げるのは少し痛かったけど、いつもより目が大きく見えた。唇は可愛いピンク。グロスがツヤツヤと光っている。

「ムフフ。さすが私。文句無しの美少女アル」

いつもと違う、メイクアップした自分。可愛らしく装うと、いつも通る道も景色も、なんだか輝いて見えた。

神楽はご機嫌で、志村邸からの帰り道を歩いていた。

うきうきと浮かれ、時々くるっと回ってはポーズを決めるという奇っ怪な行動に出ながら歩いていたので、神楽は反対側から来る見知った人影に気づかなかった。

「よオ、チャイナじゃねーか」

真選組の沖田総悟である。隣には、一緒にパトロール中なのであろう、土方もいた。

「ん？ お前エ、その口…」

お、と神楽は思った。この男、早速メイクアップした可愛い美少女の（くどい）自分に気付いたらしい。いいぞ、褒め称える！褒め殺せ！

「油でも舐めたのかイ？ ギットギトしてんぞ」

ギットギト…。

ギットギト？

ギットギトオオオ！？

「おい、総悟…」

この手のことにはまあ人並みに察しの良い土方が、慌ててフオロ
ーしようとする。バカお前あれは油じゃねーよグロスだよオシャレ
だよ化粧だよ！ と。

しかし土方がフオローに回るより早く、神楽の大音声が二人の鼓
膜を揺らした。

「バカ沖田アアアア！！！！！！！！！！」

「！？」

「お前なんか大っ嫌いアル！！　くたばれ！！　サド野郎オオツ！
」

顔を真っ赤にして、ありったけの罵声を投げつけて、神楽は走り
出した。

（バカ沖田！　あいつにはデリカシーってもんがないネ！！　最低
アル！！）

ホントは、

ホントは、可愛いって。言ってもらえると、思ったのに。

（後書き）

書き終わった後で、沖田はこんなに鈍くないよな…と思いました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5531u/>

二人のカンケイ（前編）

2011年9月1日05時00分発行